

福井先生の講義の中で提示された演習です。

下記の内容を読んで、どんな「10の姿」が発揮されているか、理由も含めて考えてみましょう。

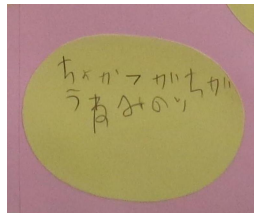
5歳児クラスの出来事です。自由に遊んでいる時間に、何やら芝生の上で子どもたちがはしゃいでいます。何事だろうと保育者が近寄っていくと、子どもたちのうちの一人が「先生、この小さいバッタ何？」と普通のバッタよりも一回り小さいサイズのバッタを眺めながら尋ねてきました。その後、子どもたちと保育者で図鑑で調べ、トノサマバッタの幼虫だということがわかりました。「クラスみんなでエサを持ってきて育てよう」ということになり、虫かごの中で育てることになりました。

何日か経過したある日、バッタが脱皮をしていました。その現象が「脱皮」であることを保育者が伝えましたが、子どもたちはピンときていない様子です。しかし、時間の経過とともに、バッタが何度も脱皮を繰り返すうち、数人の子どもたちが「前より大きくなって…？」ということに気がつきました。

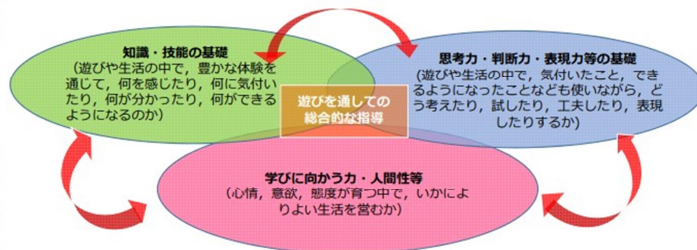
その後、園庭でみつけたバッタに関する成長と様々な発見について、「いろんな人に知ってほしい」と子どもたちから声が上がりました。それに対し保育者が「じゃあせっかくだから新聞にしてみようか！」と提案したところ、子どもたちみんなで「ばったはっけんニュース」作りが始まりました。最後には、お父さん、お母さんや近くの学校の先生たちにも新聞を見てもらうことができました。



ちやく(しょく)がちがうね



環境を通して行う教育



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿



※10の姿は到達目標ではありません。資質・能力が育ってくると現れてくる姿、実践を振り返るポイントです。